

## 平成29年度第1回吹田市立図書館協議会（会議録要録）

開催日時：平成29年6月20日（火）

午後2時～4時

開催場所：中央図書館3階第2集会室

出席委員）渡邊委員長、柴田副委員長、上野委員、佐中委員、佐藤委員、林委員、  
稲垣委員、

事務局）木戸地域教育部長、落地域教育部次長

西尾中央図書館長、宮東参事、長参事、林野主幹、栗生主査、

森千里図書館長、森さんくす図書館長、梶原江坂図書館長、

廣本千里山・佐井寺図書館長、桑名千里丘図書館長、

牧瀬山田駅前図書館長

傍聴者）2名

### 平成29年度第1回吹田市立図書館協議会次第

#### 1 新委員紹介

#### 2 7期 図書館協議会の要望書、意見書について

#### 3 報告事項

「平成29年度（2017年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」について

「（仮称）健都ライブラリー」の整備について

「平成28年度（2016年度）吹田市市政モニタリング調査」の報告について

#### 4 その他

（1）次回日程について

（2）その他

渡邊議長：開会の挨拶

事務局：傍聴者確認

出席確認

資料確認

地域教育部長挨拶

事務局の職員紹介

#### 1 新委員紹介

渡邊議長：それでは会議次第に従い進めてまいります。まず、第1の新委員の紹介について事務局より説明をお願いします。

宮東参事：本日お配りした資料の吹田市立図書館協議会委員名簿をご覧ください。今回2名の委員の方がお変わりになりましたので、御説明いたします。今般、教育委員会議におきまして学校教育及び公民館長会から御推薦いただいております、委員2名の方の交代が承認されました。

まず、社会教育関係者として吹田市公民館長会より推薦をいただいていた寺本委員につきましては、公民館長を任期満了に伴い辞任され、後任の委員として吹六地区公民館館長佐中様を御推薦いただきました。次に、学校教育関係者として吹田市立学校長会より推薦をいただいていた豊留委員につきましては、役員改選により辞任され、上野様を後任の委員として御推薦いただきました。委員は、南山田小学校の校長先生でございます。

渡邊議長：自己紹介をお願いいたします。

(各委員自己紹介)

## 2 7期 図書館協議会の要望書、意見書についての意見交換

渡邊議長：では、次第の2、7期 図書館協議会の要望書、意見書についての意見交換に入りたいと思います。先般お手元に資料が届けられたと思いますが、5月末までに28年度の委員の皆様から今後の吹田の図書館のあり方を考える一つの手がかりとして意見を頂戴していただきました。その内容をまとめてたたき台という形でこの場に提示させていただきました。まずこの内容について意見交換をしたいと思います内容を見ていただくとわかりますが、まず3つの大きな柱をたて、学校図書館との連携、吹田図書館と学校現場との連携という柱、二つ目が読書推進について図書館に何を望むのか、三つ目が新規利用者の獲得のために何ができるか協議会のそれぞれの皆様の立場から頂いた忌憚のない御意見をまとめたものです。

3つの柱の一つずつ、議論をしていきたいと思います。2ページ目は渡邊が書かせていただきました。本要望書の意義を表現したものです。このあたりについては改めて御意見を頂戴したいと思います。

まず、一つ目の柱、小中学校と図書館の連携についてです。大きく分けて4つの御意見と要望がありました。一つ目が小委員会による学校図書館との情報交換組織の設置についてです。今までも連携はするべきであるが、具体的に進まないといった状況があるということで、そのあたりを何とかしたいということで小委員会方式で組織を立ち上げていければ良いのではというところが一つ目の意見です。二つ目はすでに動いているプログラムの拡充をしてほしいというご意見でした。プログラムが箇条書きになっています。三番目が読書活動支援者をもっと拡充してほしいという要望です。これも具体的なプログラムは動いておりますが、更に充実させてほしいという具体案です。最後が読書活動支援者を学校司書化してほしいという御意見です。これらに関して追加などございませんか。

稲垣委員：2番目の項目にあるような今までの取組を発展させながら、状況をもうひと押

し進めるために、一番上の小委員会などで詰めて論議する場が必要かと考えました。すべてがバラバラにあるのではなく思いは一緒かなと思います。

佐藤委員：このままで結構です。

上野委員：学校の状況ということで。三つ目の読書活動支援者の拡充ですが、吹田市では昨年度から読書活動支援者の全校配置ということを目指していましたが、応募人数が満たないということで、例年通りの2校配置でスタートいたしました。今年度はほぼ、全校に百パーセントではないのですが、全ての小中学校に読書活動支援者が来ていただけました。実際本校でも昨年度まで2校兼務であった支援者の方が毎週、常におられるということで、本当に子どもたちの読書環境の充実を実感しております。

渡邊議長：差支えなければ希望者が少なかったことについてお聞かせください。

上野委員：昨年度から子どもたちの放課後の居場所づくりという観点で、勤務時間が以前より長くなったということも関係あるように聞いております。今年度は勤務校でも4時半まで来ていただくことで、放課後も子どもたちが図書室に寄れる。あるいは本の貸出や調べものをしたいときに支援者がいることによって、安心して子どもたちが図書館で過ごせる。ということになっています。

稲垣委員：先生にお尋ねしたいのですが、今年は状況が改善されたということですか。

上野委員：読書活動支援者がいない週が無いということは、図書室がよりオープンになったということです。私たちも安心できる、子どもたちも何か聞ける人がいる。調べもののアドバイスがもらえ、図書館が子どもたちのより身近になりました。また、環境整備ができるということは、国語の勉強で習ったお話をすぐに掲示して、紹介してもらえるなどの連携がスムーズに行われることで、昨年度までとの大きな違いです。

佐藤委員：私は摂津市の小学校で10年間図書室の担当をしました。やはり放課後に子どもが利用することが多いです。4時半までというのは子どもにとって喜ばしい環境になったと思います。

渡邊議長：学校教育現場から何か公共図書館に要望したいこと、支援してほしいところなどがありましたらお聞かせください。

上野委員：吹田の学校に長年勤めてきましたが、図書館との連携が密になってきているのを感じます。ごりまる便があつたり団体貸出しがあつたり調べものがあつたり、学校の図書室の本だけでは足りないところ等、団体貸出しは助かっております。いざとなったら地域の図書館に助けを求めるシステムになっています。ずっと要望してきたことが現実になってきていると思います。子どもたちが身近に本に接するのが学校では図書室なのですが、図書館にもパイプがあるということを活用させていただいて、他にも取組みがあればとも思いますが、助かっています。

柴田委員：今現在吹田市で、ここに小委員会の設置とありますが、公共図書館と学校で定期的に情報交換ができるようなところはありますか。

西尾館長：2年ほど前に学校との連携会議を持ちました。学校教育担当課、先生方、図書館、施設管理をしている学校管理室で集まりました。その中では具体的に何をしてほしいかということが吸い上げにくく、去年は開催しませんでした。現在は読書活動支援者への支援をしようということで、図書館で時間外にはなるのですが交流会を呼びかけまして、図書館ではこんなことができますよ、困っていることは無いですか、などの声掛けを昨年から実施しています。今年も予定しています。そういうかたちで現場を支援しないと進まないかなと思っています。

宮東参事：補足ですが、学研図書館部会には定期的に職員が参加して本の情報をお伝えしたりしております。

柴田委員：日頃顔なじみになることから意見が出てくるのかと思います。続けていくことで委員会という形になった時にも進むと思うので、続けていただけたらと思います。

渡邊議長：続きまして二番目の柱、読書推進のために吹田の図書館に何ができるのかということで、神野委員の御意見が中心になっています。まず何より読書推進のための予算がなければ、推進のための様々なプログラムが実施できないので、確保してくださいということです。二番目には各種図書館サービスの実施できていない項目を精査し対策をして下さいということ。三番目は読書推進のためのアイデアを市民から募集する制度を作ってほしい。それが読書推進の仕掛け作りにつながるものになる。最後が吹田市子ども読書推進計画の改訂をしてほしいというのが、末岡委員の意見です。これも期限が来るのではないかとということで計画の再構成をお願いしたい。以上のような内容です。これについて御意見、補足等はございませんか。

稲垣委員：最後の吹田市子ども読書推進計画の改訂というのは、現在動いているものを取りまとめて次の計画をということですね。吹田市として何か予定はありますか。

西尾館長：吹田市子ども読書活動推進計画につきましては、平成19年に策定したものを5年で見直すということで平成25年に改訂しました。そのときには期限を5年と区切らずに改訂しました。現在、他では3次改訂の動きが出ていますので、次を視野に入れる必要があると考えていますが、まだ、目標が達成していないところがありますのでそのあたりを見据えながら進めていく必要があると考えます。この吹田市子ども読書活動推進計画は実は図書館が中心ということではなく、地域教育部のまなびの支援課が生涯学習の取りまとめということで、いろんな部署をまとめて作ったものです。今後、担当とも相談して、次について考えていきます。

稲垣委員：できていないのは当然で、完璧にできるということは無いので。特に5年したら変えるということではなかったのですね。この吹田市子ども読書活動推進計画を進めるために今できることはありますか。進捗状況を把握することから考えていけば良いですね。たとえば学校図書館が進んでいるのであれば、後は何ができるのかを私たちが考えられるのであれば。

佐藤委員：引き続き具体策の改訂を希望するとあるので良いのではありませんか。

渡邊議長：2番目の未実施項目の精査と対策についてですが、具体的に現在これらの指摘がされるところはあるのでしょうか。

宮東参事：毎年出している評価の中で、ここはまだできていないというものがあるので、そこを指摘されているのではないかと思います。

西尾館長：平成25年に策定した図書館基本構想でアクションプランという10年間の目標があります。具体的に一つひとつはここで申し上げますが、それをきちんとしてという意見をいただいたのだと思います。

渡邊議長：10年間のアクションプランというところが入っていないので誤解を招くということでしょうか。では、最後の項目で図書館利用者の獲得というところへ進みます。ここは少し数が多くなっています。一番目が利用していない登録者へ働きかけてほしい。二番目が登録者利用者の分析が必要なので実施してほしい。三番目として広報ということでもっともっと図書館を知ってもらおう仕掛け作りを行ってほしい。四番目は、居心地の良い空間演出をしてくださいということで、工夫次第で古くともできることがあるのではという意見です。次が情報通信環境の整備と充実です。図書館内でも情報通信環境をさらに充実させてほしいということです。続きまして障がい者対応の文化的・社会的支援の拡充です。こちらは文字通りです。次が少し重複するところがあるのですが、広報の一部としてSNSを利用してより利用者獲得につながるコンテンツを配信してもらいたいということです。最後に開館時間拡大です。さまざまなプログラムを用意してくれていますが、勤労者を中心に仕事帰りに図書館に寄って勉強しなおしたりというのが6時に閉館では使いにくいのではないのかというところですか。柔軟に夜間開館することでまちライブラリーのような市民参加型のプログラムが夕刻から開催できて、利用者の新たな開拓に繋がるのではないのかという意見です。これらについてご意見、追加項目などありますでしょうか。

佐藤委員：利用者の分析については、個人情報で難しいと聞いています。居心地という点で席をたくさん用意できればと思うのですが、何年か前に図書館でうとうととしたときに肩をたたかれて「寝る場所ではございません。」と言われました。最近寝ていても肩たたきがありません。肩たたきされて足が遠のくこともあるかもしれませんので難しいとは思いますが、図書館の場所を守るために、何らかの働きかけがあっても良いのではないかと思います。寝る場所ではありません。という掲示をするなどの働きかけがあればと思います。

渡邊議長：掲示をしながら、図書館をこういう風に使うのだよとお知らせしていくということですね。

佐藤委員：やはり一人の方が、その場所をほぼ半日占拠するということがありますので。

林委員：予約の問題なのですが、予約した本を並べているのが非常にわかりにくいです。茨木市の図書館では自分の名前の50音順で並べていて、すぐわかると聞きました。

今は5と書いてあるのがいっぱいあってわかりにくいです。予約棚に一人常駐されているのです。それなら前のように窓口で渡してくれれば良いのにと感じてしまいます。個人情報のことがあるとお聞きしましたが、この方式で個人情報が見えなくなるのでしょうか。説明が無くても誰もがすぐにわかるやり方にならないのでしょうか。吹田の図書館は全部あのやり方ですか。非常にわかりにくいです。

西尾館長：共通の並べ方をしています。複数の図書館を使われる方もいらっしゃいますので同じにしています。最初に数字があつて横棒があつて利用券番号の末尾3ケタが入っています。利用券は変わりませんので、いつも同じ棚に行っていただけのように考えています。林様の「は」と同じと考えてください。最初の数字は本が確保できてお借りいただけるようになった日付です。

佐藤委員：掲示をしっかりとくださいと前回もお願いしたと思います。やはり掲示がされていません。ここで言うだめならどうすれば良いのか。

林委員：以前も個人情報と言われましたが、カードを見せるだけでしたので、個人情報と関係するとは思えないのです。

西尾館長：例えば、「は」のつくところに本があれば「は」で始まる名前だとわかってしまいます。それで番号で置くことにしたわけです。今まで、カウンターで本をお渡しするのは確かに親切なのですが、名寄せをするなどの手間が、かなり大きなウエイトを占めていました。それは、委託料の削減にはつながっています。また、お客さんが自分の名前のカードを渡して職員に本を取ってもらうのに名前と借りる本がわかってしまいます。近所のアルバイトの人がカウンターに入っている時に、本を借りにいけないという御意見を実際に頂いたこともあります。プライバシーに敏感な方からは、今の方式が良いという意見をいただいています。

木戸部長：こういった御意見をいただいています。利用者の声が一番ですので、わかりやすくするために、もう一回どういったことができるのか検討し掲示などを工夫したいと思います。

林委員：茨木の図書館はわかりやすいということです。名前の50音順ですので理解しやすい。5の意味が分からなかったのも、それが前に来るのでどうしてなのだろうと思った訳です。掲示するとしてもそれを書くともたややこしい。

西尾館長：茨木市も見学し参考にします。

木戸部長：今までいろんなご意見をいただいてこの形になってきたと思うのですが、大勢の意見なのか、たまたま声の大きい人の意見なのか、いろんなことが考えられますので、本日いただいた意見を再度検討し、変えられるところは変え、変えられない場合は理由を、次回説明したいと思いますのでよろしくお願いします。

佐中委員：5ページ目に情報通信環境の整備と提供とあるのですが現況を教えてください。

西尾館長：現在、大規模館で、Wi-Fiが利用できる座席の用意できる館。千里山・佐井寺図書館と千里図書館と山田駅前図書館の3か所です。これにつきましてはこちらで契約しているシステム会社にルーターを設置してもらって毎日パスワードを変え

て提供しています。同じにすると逆に侵入されてイタズラの可能性があるためです。また、統計を取るために、使用の際にはカウンターへ申し出ていただいて、パスワードをお渡ししています。

佐中委員：利用者はおられますか。費用はどのようなのでしょうか。

西尾館長：費用はシステムの中に入っており、込みの料金です。実際にスマホでシステムに侵入しようとした形跡なども報告されており、簡単に Wi-Fi といいますが、セキュリティを持った環境を整えるのは重要であると思っています。Wi-Fi ですが、年間全館をあわせて 1,616 件です。そんなに多くはありません。月にだいたい多くて 128 件少なくても 30 件、1 館で 100 件前後でしょうか。

林委員：吹田図書館でビブリオバトルをしようとしている動きはありますか。

西尾館長：毎年、中高生年代の YA サポーターの運営で、ビブリオバトルを中央図書館で実施しています。出場者を募集するのに毎回苦勞しております。

宮東参事：出場は YA 世代ですが、参加は大人の方から小さい人までどなたでも応援していただけます。

渡邊議長：先程、部長にまとめていただきましたが、予約についても、この柱の中には入りませんが、その他として書いた方が良いでしょう。文章はこちらで調整させていただきます。

佐藤委員：前にも出た意見なので、入れてください。

稲垣委員：この要望書は協議会でまとめて議長から図書館へとなるのでしょうか。

渡邊議長：そうですね。タイトルも要望書としていますが意見書のほうが良いのかもしれませんが。表記の仕方と形式をふくめて最後にお諮りしたいのですが。

佐藤委員：これは図書館への後押しですので図書館で決めてもらっても良いのでは。

稲垣委員：バラバラにすると図書館も受け取りにくいと思います。

渡邊議長：もちろん、ひとまとめにして作成するつもりです。

稲垣委員：図書館を支援する気持ちがここに表れていると思います。具体的にどうするかというところも書かれているのですが、バラバラのような気がします。そういう書き方で良いのでしょうか。もともとそういう提案でしょうか。協議会でもう少しまとめて、実際に進むような形でまとめて手渡したいと考えていました。文章の書き方としてというより諮問機関でありますので館長さんに協議会として渡すのに、本筋と細かいことが混じっているのです。学校支援では公共図書館や吹田市としてはこうあるべきとして、その中で具体的にはこういうことがありますよというように考えていただきたいです。

渡邊議長：内容的に本筋と具体案が入り混じっているので、もう少し整理してということでしょうか。

稲垣委員：学校との連携でも、先程先生が言われた通りいろんなことが積み重なって今の状況になっていて、現状を押さえたいうえでそれをもう少し進めるにはどうすればいいかというのを私たちの意見をこの中でまとめることができるのかなと思いま

す。

渡邊議長：具体案が提示できれば良いと思うのですが、実際どれだけ出るのかなという疑問があります。ピンポイントではないですが、この方向性でやって欲しいということとはかけると思います。その文脈で編集させていただくということでしょう。

稲垣委員：学校図書館としてどうして欲しいのかがわからないと提案する意味が無いので。

佐藤委員：細かく言い出すと他にもいろいろあるのですが、要望書というのはこんな感じでお願いします。というものではないでしょうか。

渡邊議長：お二人の意見もいただき、今一度持ち帰って再検討して皆さんの手もとに送らせていただきます。改めての検討を宜しくお願いいたします。

稲垣委員：マイケル・ゴーマンの5原則の和訳もよろしく願いいたします。

渡邊議長：表記も含めて再検討ということでこの件は終了させていただきます。

### 3 報告事項

#### 1 「平成 29 年度（2017 年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」について

渡邊議長：次第の3報告事項に入ります。「平成 29 年度（2017 年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」にはいります。事務局より説明をお願いします。

宮東参事：それではあらかじめお送りしておりました「平成 29 年度基本方針と目標」について説明いたします。今年も平成 25 年に策定されました吹田市立図書館基本構想に基づいて事業を進めてまいります。

今年度の基本方針について説明いたします。1 ページの市内全体の状況について、市内の図書館でシステム変更により山田分室を除いて入館ゲートを設置したことにより来館者数がカウントできることになりました。のべ 199 万人を超える皆様が図書館に来ていただいているということです。資料の利用や行事などでは、はかれなかった人の多さに驚いているところです。

基本目標の1、地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。ここでは主に施設と資料の利用についての目標を掲げております。

今年度の大きく変わった点は、中央図書館の再整備についてです。今年度、耐震診断が実施されますので、今後の方向性がはっきりしてくることになると考えます。図書館不便地域の解消については岸部地区への整備に向けて業務が始まりました。また、広域連携については、北摂7市3町で7月1日から実施となり、主に市境にお住まいの方にとって、今までは自動車文庫しかなかった図書館利用の選択肢が増えることとなります。

リニューアルしたホームページを活用してレファレンス事例や地域資料のデータベースの公開に引き続き取り組んでおります。いろいろな意見をいただいてより良いものにしていきたいと考えております。



貸出点数は I C システムの影響もあり少し増えています。市民が毎月利用する 12 点に近づけるのが目標ですが、本の館外貸し出しを利用しない図書館利用のあり方についてもっと研究する必要があると感じています。

行政内部との連携として新着図書案内を市内 LAN に載せた効果が表れてきました。199 万人が足を運ぶ施設として図書館を行政の中でもっと利用してもらいたいと考えています。

3 ページ目の基本目標の 2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

図書館が提供する利用者の皆様に直接かかわる、サービス内容を掲げております。今まで続けてきた取組みを後退させること無く充実させることと、今年は部の重点項目にも障がい者サービスを掲げています。特に拡充項目としては後で千里山・佐井寺図書館で紹介いたしますが、障がいを持つ方への郵送サービスを実施することになっています。

4 ページの基本目標 3 子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。

吹田市子ども読書活動支援センターの設置を大きな目標とし、その役割を果たすために、現在学校との連携を深めるための努力を続けています。また、図書館独自の子どもの読書振興の取組はこれからも続けていきます。

続きまして 5 ページからの中央図書館の運営について説明いたします。

運営方針でご覧いただきますように、中央図書館としての役割は方針の策定、資料の管理、情報管理や学校や関連施設と連携協力の拠点の役割、自動車文庫の運行が主なものとなっております。開架冊数が 7 万冊台と狭隘のなか老朽化も相まって場所だけ中央なのですが、図書館奉仕は全般的に取り組んでおりそれらをひとつひとつ丁寧に見直ししながら、分館で窓口委託を行っても業務を組み立てられる職員を育てていきます。

成果としては貸出目標をクリアしたことと、岸部地区への図書館整備があげられます。29 年度の課題としては、大和大学も学生数が増えており新規利用者を開拓することと、読書活動支援者のサポートやデジタルデータ化の取組をすすめることです。

森千里図書館長：千里図書館について説明します。千里ニュータウン地区にある図書館として、北千里分室と共に乳幼児から高齢者までの暮らしに役立つ図書館サービスを目指します。千里図書館では、特に健康医療サービスと多文化サービスに力を入れて取り組んでまいります。また、両施設とも千里市民センターや北千里地区公民館など同じ建物にある施設だけでなく、近隣の学校や病院など様々な施設と連携して地域コミュニティの活性化に貢献できる図書館サービスの展開を目指します。

平成 28 年度の成果と課題については、「さわる絵本作り」講座から誕生したボラ

ンティアグループ「さわる絵本一步の会」が、視覚障がい児のためのさわる絵本を2冊作成し、図書館に寄贈いただきました。高齢者の方には、昔を懐かしんでいただけるような千里ニュータウンミニ写真展を夏と秋に開催し、関連して講演会「千里ニュータウン今昔物語ーアケボノゾウからエキスポシティまで」を開催しました。多文化サービスでは、「英語でえほんを楽しもう！」という行事を関西大学の学生の方々の協力をいただき3回開催、吹田市国際交流協会からの講師派遣で「ノンさんと英語でえほんを楽しもう！」も開催し、子ども達が英語に親しむ機会を設けました。また、英語絵本をパックにして学校に届けるサービスの試行を実施しました。健康医療サービスでは大阪府済生会千里病院と連携して講演会「消化器がんのおはなし」を開催しました。

平成29年度の事業計画と目標としては、千里ニュータウンは約3割が高齢者という高齢化地域です。高齢者の来館者は年々増加しており、余暇を過ごす居場所として、また生涯学習の拠点として、地域と連携したサービス展開を目指しています。千里図書館のキャッチフレーズは「図書館はあなたの居場所です。図書館デビューしませんか。千里図書館は、あなたの生きがいを応援します」となっています。

地域全体の課題として今後一層の充実を図るため、学校との連携や保育園の赤ちゃん会など千里ニュータウン内の施設訪問をはじめとする地域との連携に取り組んでいきたいと思っています。また、平和祈念資料館や吹田市国際交流協会など千里ニュータウンプラザ内の各施設との連携をすすめます。特徴的なサービスとしては千里ニュータウン写真展と関連した講演会を開催します。平成27年度(2015年度)から始めた「ゆるっと読書倶楽部」を継続し、群読講座を始めます。本を介した利用者同士の交流の機会を設けます。外国語資料の充実とともに、日本人の多文化理解に役立つ資料の充実を図ります。健康・医療情報サービス、保健センターや文化スポーツ推進室、医療機関との連携による講座や講演会を開催します。

北千里分室では、地域の文庫と連携した絵本の読み聞かせ講座に取り組み、好評でした。また、北千里地区公民館の講座と連動した本やCD特設に取り組みました。平成29年度は公民館との連携を深めると共に近隣の学校や文庫とも連携して地域に密着したサービスに取り組んでまいります。

森さんくす図書館長：さんくす図書館の紹介をいたします。さんくす図書館は、JR吹田駅・バスターミナル前という恵まれた場所にあり、図書館利用に不便な地域からの利用も考慮し、様々な施設と連携し地域のまちづくりに役立つ図書館を目指します。

さんくす図書館の奉仕圏は市内でも高齢化率の高い地域となっておりますので、高齢者の利用が大変多くなってまいります。平成28年度には、「高齢者向け紙芝居リスト」を作成し、全館で配布し、ホームページにもアップしました。また「大

人のための折り紙教室」を開催し、参加者からは大変好評でした。写真展では「大阪駅とその周辺」というテーマで産木民彦さんから写真をお借りし展示しました。見に来られた市民の方から、「大変懐かしい」というお声をいただきました。

また、さんくす図書館の周辺は、歴史ある街並みが残っている地域になります。市民の方々も歴史に興味のある方が多く、昨年度のじゅずつなぎ講座では、「吹田のだんじり」についての講演会を開催し、多くの方の参加がありました。吹田のだんじりの新たな魅力を発見された方も多かったようです。今年度も吹田の歴史に関連のある講座を予定しております。

児童サービスでは、昨年度8か所の幼稚園・保育園を訪問をし、読み聞かせや大型紙芝居を行いました。今年度も引き続き、訪問する予定です。また、ブックスタート事業の絵本の配布率をあげるため、地域の6か所の「赤ちゃん会」へ参加し、絵本の手渡しを昨年度から始めました。今年度も同様に参加させていただき、ブックスタートの本を親子に手渡しできるよう努めていきます。

学校との連携では、読書支援者交流会を昨年度同様開催します。図書館と読書支援者、読書支援者同士の交流を深めていきます。今年度は、専任の読書支援者の学校に訪問します。特長的なサービスとしては、吹田市の地域経済振興室が設置している「JOBナビすいた・JOBカフェすいた」と連携し、求人情報などのチラシやパンフレットを収集しています。それとともに、今まであまり図書館で収集対象にしてこなかった資格試験の問題集や参考書などの資料も集めています。大阪市との広域利用（試行）を行っている図書館は、現在さんくす図書館だけです。新たに北摂7市3町の広域利用が始まりますが、大阪市との広域利用もさんくすは引き続き実施し、サービスに取り組んでまいります。

梶原江坂図書館長：江坂図書館の紹介をいたします。江坂図書館はビジネス街マンション街商業地に隣接し、職住混在地域に立地しております。また、江坂公園に位置することから幼児と家族連れでの利用が多いこと、ビジネスパーソンや通勤者が多いことが利用の特徴です。そういったことから、今年度もビジネス支援と子育て支援に力を入れていきます。また、昨年度は江坂図書館20周年にあたり記念事業として朗読家の花邑てん氏を講師に迎え朗読講座を3回開催しました。のべ71人の方に参加していただき再度開催してほしいと好評でした。

14 ページの特徴的なサービスの説明をします。まずビジネス支援ですが、ビジネス書を集めたコーナーを設置しています。ビジネスコーナーの充実と有料データベース「日経テレコン21」のPRが今年度の課題です。次に子育て支援について、ブックスタートのひろばの参加人数は27年の統計で4,445人でした。全館平均が1,750人ですので突出して多いといえます。ひろばのある日は、新規登録や絵本の配付で全体の利用が増えますので、職員体制を整えて臨むようにしています。昨年度は保育士さんによる育児相談を実施しました。今年度は「保健師による育児相談」を実施する予定です。これからも保育士さんと保健師さんの育児相談を交互に実施

する予定です。職員の更衣室を授乳室として利用してもらっていますが、ベビーカーが入りやすいように、レイアウトの変更を行い対応しました。

江坂ロビーフェスタについては平成 15 年に始まりました。当初はマジックや人形劇など内容は多岐にわたっていましたが、ジャズやクラシックの音楽やハワイアンやフラメンコなどの舞踊に固定されてきました。毎年同じ演目でスケジューリングされることで、楽しみにしているお客様が増えていると感じます。演者は文化団体「技芸精舎」でボランティアで来てくださっています。毎回 100 人を超えるお客様を迎える準備を図書館のボランティア「図書館フレンズ」が担っています。通算 131 回を数え参加者は、通算 11,400 人となりました。場所は花と緑の情報センターのロビーを使用しています。ロビーフェスタを通じて花と緑の情報センターとは常に協力体制ができています。

最後に窓口等業務委託についてですが、こちらは 10 月 1 日からの実施です。透明性公平性の高い公募型プロポーザル方式で業者選定を実施します。

廣本千里山・佐井寺図書館長：千里山・佐井寺図書館について、報告いたします。

千里山・佐井寺図書館は、現在、障がい者サービス拠点館の役割を担っています。昭和 51 年（1976 年）から録音図書（カセットテープ）の貸出で始まった、吹田市立図書館の視覚障がい者サービスの実績は、北摂では随一です。毎年ボランティアを養成し、視覚障がい者向けの音訳・点訳資料を製作するとともに、製作した録音・点字図書のデータを利用者が自宅からインターネットを通じて利用することもできるようにサピエ図書館や国立国会図書館の「点字図書・録音図書全国総合目録」へのデータ登録作業も進めています。昨年度 12 月よりデジタイズ図書再生機器（プレクストーク）の貸出を開始しました。1 台では追いつかないほどの貸出状況となっています。昨年は 6 名の方の利用ですが、常に予約待ちの状況です。今年度は図書館にいらっしゃれない方に対しての郵送貸出を準備しております。8 月からの開始を目指して準備しております。

千里山・佐井寺地区は、古くからの集落と新興住宅が混在した地域です。また、近くには関西大学のキャンパスがあり、千里山駅前開発とマンション建設等で今後も人口の増加が見込まれます。また、地域の情報拠点として、仕事や暮らしに役立つ新鮮な情報の提供に努めます。図書館企画の行事のほか、多目的室等の利用団体の方を講師にした講座や行事の開催など、地域の方々の交流・発表の場を提供します。約 18 万冊の図書の書庫を開放する「ちょっと書庫まで」を実施し、図書館資料の利用促進を図ります。また、情報コーナーのパソコンを利用して図書館ホームページやオンラインデータベースの使い方の講座を毎年開催しています。

桑名千里丘図書館長：千里丘図書館について、報告いたします。千里丘図書館は、平成 25 年 1 月に開館し、来年 1 月で開館 5 年になります。古くからの住宅街に加えて、大規模マンションが建設され、子育て世代も多い地域の図書館として、あらゆる

年齢層の方の生活、仕事に役立つサービスの提供に努めています。また、摂津市に隣接しておりますので、現在広域利用として摂津市の方に多く利用していただいております。7月より北摂地区7市3町の広域利用が始まりますが、別の方向に行きますと茨木市にも近いので茨木市の方にも多く利用していただけたらと思います。平成28年度の成果と課題については、まず学校との連携に関連して、近隣の小学校1校と連携して、3年生のお子さんにおすすめ本の紹介をしていただく「どくしょゆうびん」を実施し、館内に展示することで、来館の大人にも子どもたちが本を楽しむ様子が好評でした。また、それから書架の上や階段のスペースに市民の方から公募した絵や写真などを2カ月単位で展示する企画を11月から始めました。2階の奥まった場所にあったマンガコーナーと、1階児童書コーナーの一角にあったYAコーナーを2階に上がってすぐの目立つ場所に隣り合わせに移動させたことにより、10代を中心に以前よりも足を止めて本を手にとったり、近くのスチールに座って読書する様子が見られるようになりました。今後も見やすい本の配置に努めます。

平成29年の事業計画と目標については、地域内の園、学校には、あらゆる機会をとらえて働きかけを行い、それぞれの園、学校に応じた連携を図っていきたく思います。特に昨年度1校と連携して実施した「どくしょゆうびん」については、連携する小学校を増やすなどして、図書館への来館の機会づくりに努めます。また、市民作品展示についても昨年度に引き続き実施し、図書館とつながりのできた市民の方と共同し、作品作り講座を実施します。このような講座の開催などを通じ、地域の方の交流拠点としても利用されるような図書館を目指していきます。

牧瀬山田駅前図書館長：山田駅前図書館は、平成23年3月にオープンしました。阪急山田駅に隣接し、「子育て青少年拠点夢つながり未来館（愛称：ゆいぴあ）」内にある図書館で、青少年活動サポートプラザ、のびのび子育てプラザと連携しているのが特徴です。のびのび子育てプラザの子育て支援行事に参加し、ブックスタート事業のPRに努め、絵本の配布数を増やしました。3階の青少年サポートプラザを利用している中高生や、のびのび子育てプラザを利用している保護者の方に図書館を利用してもらうのが課題です。学校との連携では、前年度の倍の8校の職業体験を受け入れました。YAサポーター中高生世代を募集し選書やペーパーサートの作成やイベントを体験してもらいました。阪急山田駅周辺は、家族連れの利用が多く、古江台や津雲台地区も奉仕地域に含まれています。山田分室は、地域に密着した分室として高齢者と若年層の利用があります。近くには、国立民族学博物館や日本民芸館を擁する万博公園があり、緑とともに文化的な環境にも大変恵まれており、図書館の中に紹介するコーナーを設けています。

特徴的なサービスとしては中高校生世代に第4期を迎えるYAサポーターでは、全員が顔を合わせる機会が無かったのですが夏休み期間に図書館でボランティアを試してみませんかということで募集しました。子育て世代に向けては、ブックスター

トの絵本のひろばを通して子育ての本を利用していただこうと思っています。今年度の計画と目標は、「ひとりのびのび読書タイム」乳幼児の保護者対象に読書時間を保障する行事の充実を図ります。また、YAコーナーの充実を図ります。山田分室については地域密着型の図書室的な役割を果たしていきます。利用の多い高齢者に配慮した蔵書構成にし、近隣の小中学校の調べ学習や学習援助のための資料も揃えます。西山田地区公民館との共催事業である「本のひろば」などの行事に引き続き参加します。読書活動支援者へのサポートや図書館見学については山田駅前図書館と協力して対応します。

渡邊議長：各図書館の方針と目標、課題について報告を受けました。これについて、何か御意見ありますか。

佐藤委員：館長のプレゼンテーション能力の研修をどこかで受けていただきたい。ということと、委員になってからずっと目標値について必ず言っていますが、図書雑誌の貸出目標が上がっているのですが、さんくすだけが上昇率が少ないように思います。もう一点、本庁でも職員と話したことがあるのですが、障害者差別解消法が吹田市でも条例化されているのに、それがなかなか徹底されていない。職員の中に条例そのものがきっちり理解されていないように思うので、木戸部長から市のほうに提言してもらいたいと思います。視聴覚資料の貸出目標が上がっていないのは障がい者に配慮して無いように思うのでぜひ検討してもらいたいです。

西尾館長：ここにある視聴覚資料については障がい者サービスとはリンクしておりません。視聴覚資料というのはビデオ、CD、DVDを指します。障がい者サービスの目標値は年間制作タイトル数ということになっています。こちらは年間100点ずつ増やしていこうという目標を掲げています。最終目標市民一人当たり12点にあわせて、それぞれの館の利用実態に合わせた目標値を設定しております。

佐中委員：北千里分室の取組で教えていただきたいのですが、特設コーナーの設置と公民館の文化祭に参加とあります。特設コーナーの設置は分かるのですが、どういう形での参加ですか。

木戸部長：古本というかりサイクル本を提供しています。模擬店のような形で無料で提供するものです。1コーナーとして協力しているものです。

佐中委員：わかりました。参考にします。

木戸部長：障害者差別解消法が職員に浸透するということですが、法律が変わってすぐには研修などがありました。合理的配慮ということですね。研修担当部局などを通じて職員にもっと徹底するようにと伝えたいと思います。

## 2 「(仮称) 健都ライブラリー」の整備について

渡邊議長：では、報告事項の2 「(仮称) 健都ライブラリーの整備」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

林野主幹：(仮称) 健都ライブラリーの準備担当より進捗状況について、報告します。お手

元にあります資料のうち、3枚組で3枚目に新幹線の図が描かれているものをご覧ください。2枚目、3枚目に「(仮称) 健都ライブラリーにおける0系新幹線の配置に係る比較」とタイトルが付いているものです。

平成29年度に埋蔵文化財調査と実施設計を行う予定で予算を計上していましたが、市議会の2月定例会において、ゼロ系新幹線の配置を巡り、いろいろなご意見をいただきました。いただいたご意見を踏まえて、検討を重ねた結果、当初2階に新幹線を設置する予定を1階に設置することに変更いたしました。

資料2枚目および3枚目の比較表の右端「2階案」が当初案で、左端の「1階で掘り込み配置する場合」が変更する内容となります。

この変更に伴い、補正予算を計上し、5月の市議会において承認されました。補正予算の内容は、基本設計を修正する業務に関する予算の増額と、実施設計の完了が遅れることが見込まれることによる実施設計に関する予算の減額です。

減額となりました実施設計については、完了が平成30年度になると見込まれるため、期間を平成29年度から平成30年度とした債務負担行為補正として追加されました。

予算についての詳細は、3枚組資料の1枚目をご覧ください。

上の段の(歳出)、実施設計委託料減額と修正設計委託料増額を差引しまして、計3,888万6千円のマイナスとなり、残りの合計6,829万3千円の予算は修正設計委託料と埋蔵文化財調査委託料となります。下の段の5,095万1千円が、平成30年度までの実施設計委託料、基本設計意図伝達業務委託料として追加されたものです。

基本設計の修正を行いますため、スケジュールにも変更が生じます。修正した基本設計の完了が平成29年9月頃、実施設計の完了が平成30年6月頃、開館は当初平成32年3月の予定が平成32年11月頃になる見込みでございます。

現在、進行中の吹田操車場遺跡の埋蔵文化財調査は、現地調査を平成29年7月から11月にかけて行い、調査業務の完了は平成30年4月末の予定です。

(仮称) 健都ライブラリーの進捗状況についての報告は、以上でございます。

### 3 「平成28年度(2016年度)吹田市市政モニタリング調査」の報告

渡邊議長：では、報告事項の3「平成28年度(2016年度)吹田市市政モニタリング調査の報告」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

宮東参事：昨年度に実施されました吹田市市政モニタリング調査報告書についてご説明申し上げます。図書館では1年おきにアンケート調査を実施していますが、それは図書館を利用する人向けの物であり、図書館に来ない人のお考えを聞きたいということで、利用状況と利用しない理由を項目にあげて調査していただきました。図書館利用について 利用状況は1年以内の利用が31.6%というのは、うちの統計などとも整合性のとれた数字となっています。図書館を利用したことのある人

は約6割ということになります。一度も利用したことが無い人は33.3%その理由は必要が無い方と利用する時間が無い方約7割、ここには本を読む時間の無い方も含まれると思います。そして場所を知らない方と遠くて行けない方が約3割です。現在利用していない理由は、生活圏に無いというのと利用したい資料がなかったという割合が高くなっています。書店と異なる図書館のしくみや賢い利用の仕方を理解してもらうことで、再度の図書館利用につなげることは可能なのではないかと考えております。最後に図書館への要望が多かった順は、特にないが4割を超えますが、所蔵資料についてが2割、開館時間やサービス内容についてが2割となっています。今後も資料費の確保については、引き続き努力していきたいと考えています。先程、佐藤委員が言われていたことですが、こちらの統計は地域別の回答分析になっておりまして、これも参考にしながら、今後の図書館活動に役立てていきたいと考えております。

渡邊議長：かなり具体的な数値になります。これに関して、意見、質問はありませんか。冒頭の要望書案でもありましたが、一度も利用したこと無い方のうち、必要のない方は別として、時間が無い方については耳を傾ける必要があるのではないかと思います。昼中自由に活動できる人には図書館の利便性が、わかってもらえると思うのですが、勤労者の仕事の終わった後になかなか利用しづらいという点についてはいかがでしょうか。

西尾館長：確かに現在木曜日と金曜日が8時までですが、延べてではなく、若干時間を見直す必要があるのかなと考えております。必要のないところから、必要なところへ夜間を移すということ、これからは考えていかなければならないと考えております。時間を短縮するのはかなりハードルが高いことです。また、時間を延長するのは経費もかかることです。いわゆるスクラップアンドビルドの必要があると考えます。

佐藤委員：男女共同参画センターで広報の11月号を作っていますが、基本的に働く時間が長すぎるのです。企業では無いですが、ここ数年特に労働時間数が増えています。難しいところですが、感想です。64ページで見ると、新しい人が図書館の場所を知らないというのはいくらも得ることかと思えます。吹田市としての特徴としての結果かと思えます。

柴田委員：こういった形での非来館者へのアンケートの頻度はどうなっているのでしょうか。こういった結果が出て、それに手を打つことができれば次のアンケートで結果を知ることができるし、開館時間についてもっと具体的に聞くことができるし、今回も地域別に出されているので、どの地域を開けたらよいかを聞くこともできると思います。こういうことを聞くことができる仕組みをお持ちであればどうなのでしょう。

木戸部長：市民総務室が担当になっています。モニタリング調査と市民意識調査を4年で交互におこなっています。市役所の全部局に調査の募集があり、今回図書館が是



非調べて欲しいと希望したものが採用されました。次回これをもっと掘り下げてということで、お願いはしていきますが、採用されるかはわからないということになります。良い調査ですので今後も粘り強く希望していきたいと思えます。

林委員：図書館が必要無いという人がいますが、今は必要が無いのか、本はアマゾンなどで買うので必要が無いのか、必要が無い理由はいろいろあると思えますが、どうなのでしょう。

木戸部長：これは無作為抽出で、あまり細かく聞きすぎるとなかなか答えてもらえないのです。答えてもらえるようにという担当の気持ちもわかりますのでそれも含めて希望していきます。

渡邊議長：冒頭の確認ですが、もう一度目標などと合わせて見直しをお願いいたします。それでは、時間になりましたので、平成28年度第1回の協議会を閉会させていただきます。委員の皆様、御協力ありがとうございました。

---

本要録ならびに配付資料は、吹田市立の各図書館及び情報公開課で閲覧可能です。

要録作成日：平成29年（2017年）7月20日